

相模原市議会との包括連携協定に係る趣旨書

町田市と相模原市は、境川を挟んで接しており、兩岸に同じ地名があることなど、その交流の歴史は古く、現在でも、文化、経済、交通などで密接なつながりがあり、市民が相互に交流する生活圏が形成されている。

行政面では、首長懇談会の開催や公共施設の相互利用などが行われており、また、平成11年3月に策定された第5次首都圏基本計画では、都県境を越えて両市一体で業務核都市に位置づけられている。

両市議会では、業務核都市の指定を契機に、平成13年度から連携を深め、相互の広域連携の一助となることを目的に視察研修を中心とした議員交流会を開催し、これまで15回の実績を重ねてきている。

地方分権改革の進展とともに二代表制の一翼を担う市議会への期待がいつそう高まる中、両市の間に横たわる相模総合補給廠の一部返還が果たされ、ともに運動を進めている小田急多摩線延伸促進にも進展が見られていることなどから、両市の連携は今後ますます重要となり、これまで以上の交流・連携を推進することで得られる効果も飛躍的に高まっている。

こうしたことから、これまでの交流を継続・発展させ、政策形成の調査研究や事務局職員も含めた人材育成の教育研修を目的に包括連携協定を締結して、さらなる連携を促進し両市議会の発展につなげていくこととする。

平成28年2月12日

町田市議会

議長 上野 孝典